

令和3年度

男女共同参画に関する町民意識調査

概要版

令和4年2月

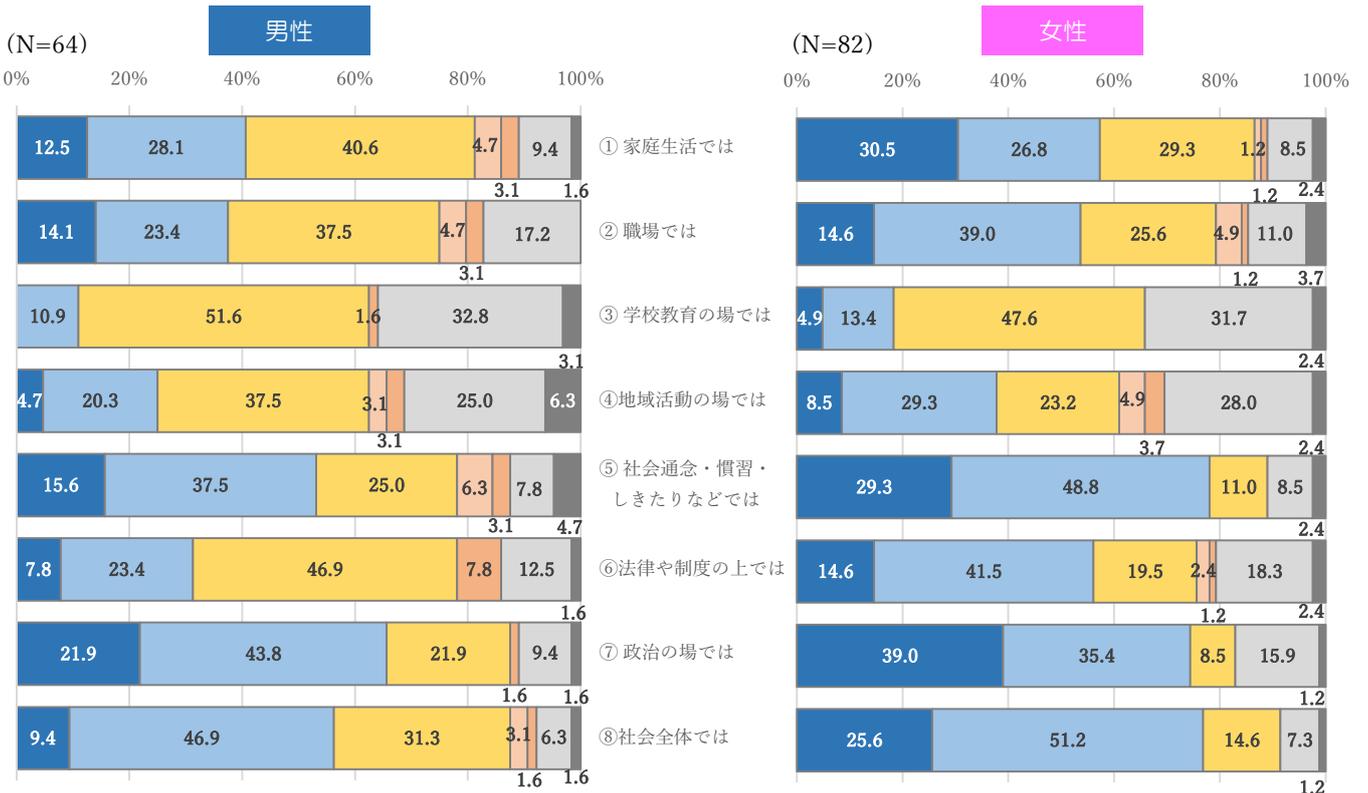
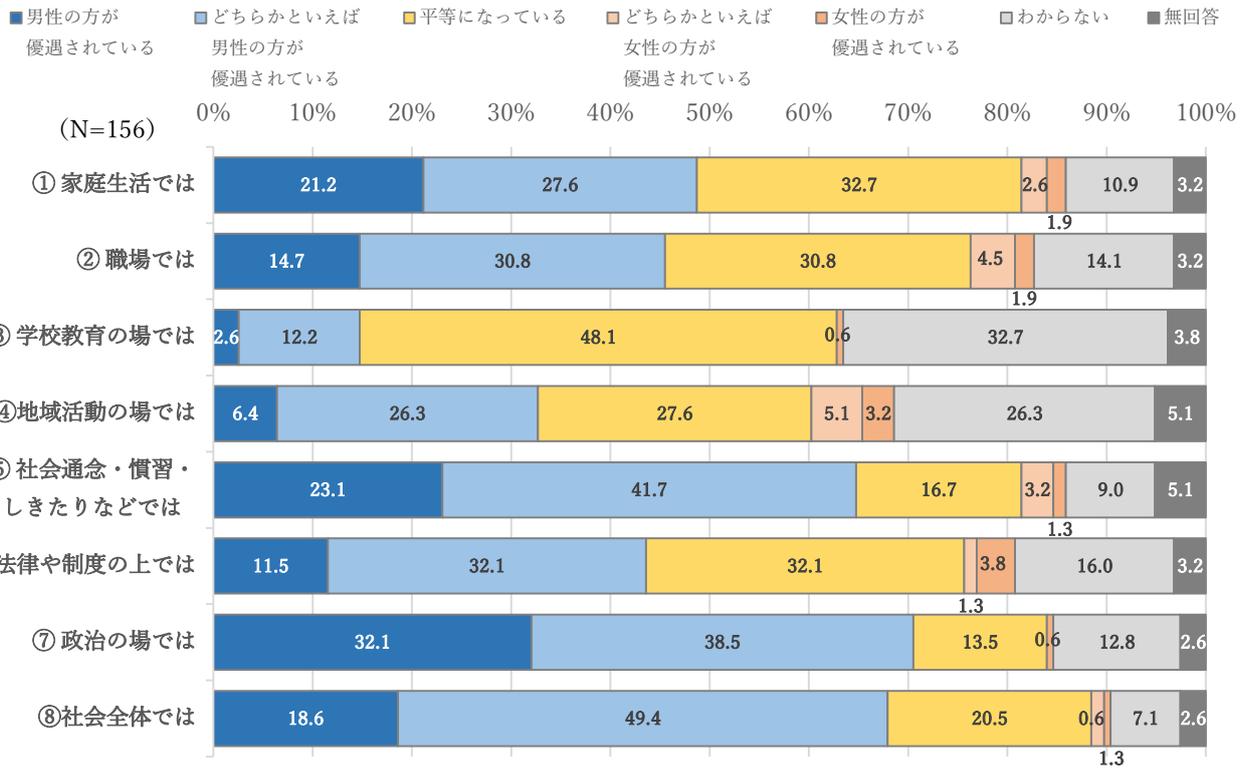
すさみ町総務課

男女平等意識について

男女の地位の平等感 報告書 p.12~13

- 「⑤社会通念・習慣・しきたり」、「⑦政治の場」、「⑧社会全体」で『男性優遇』と感じている人が6割を超えている。
- すべての分野で『男性優遇』の割合は女性のほうが高く、「平等である」は男性のほうが高くなっている。

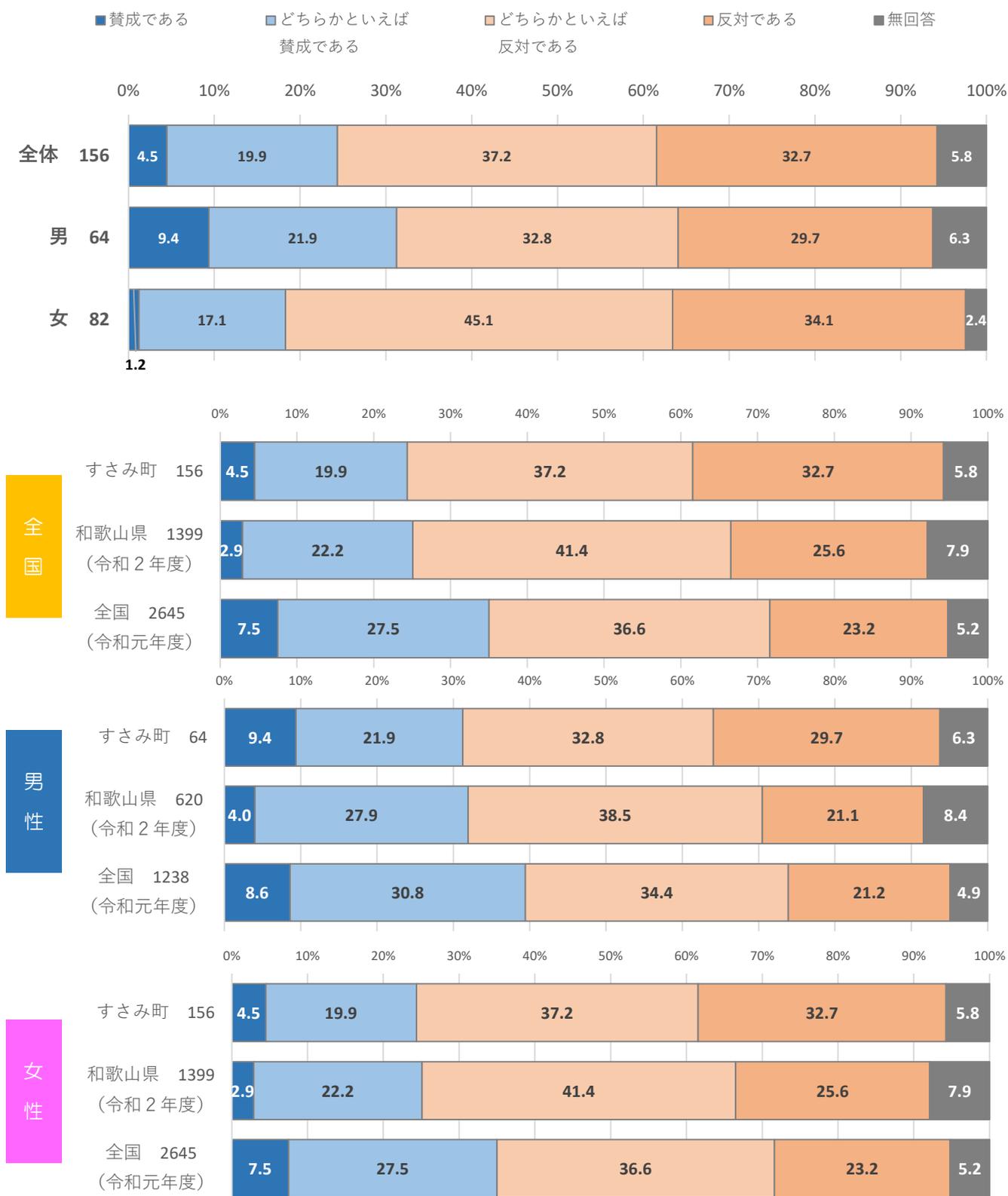
※「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの。



男女の決められた役割分担についての考え 報告書 p.16~20

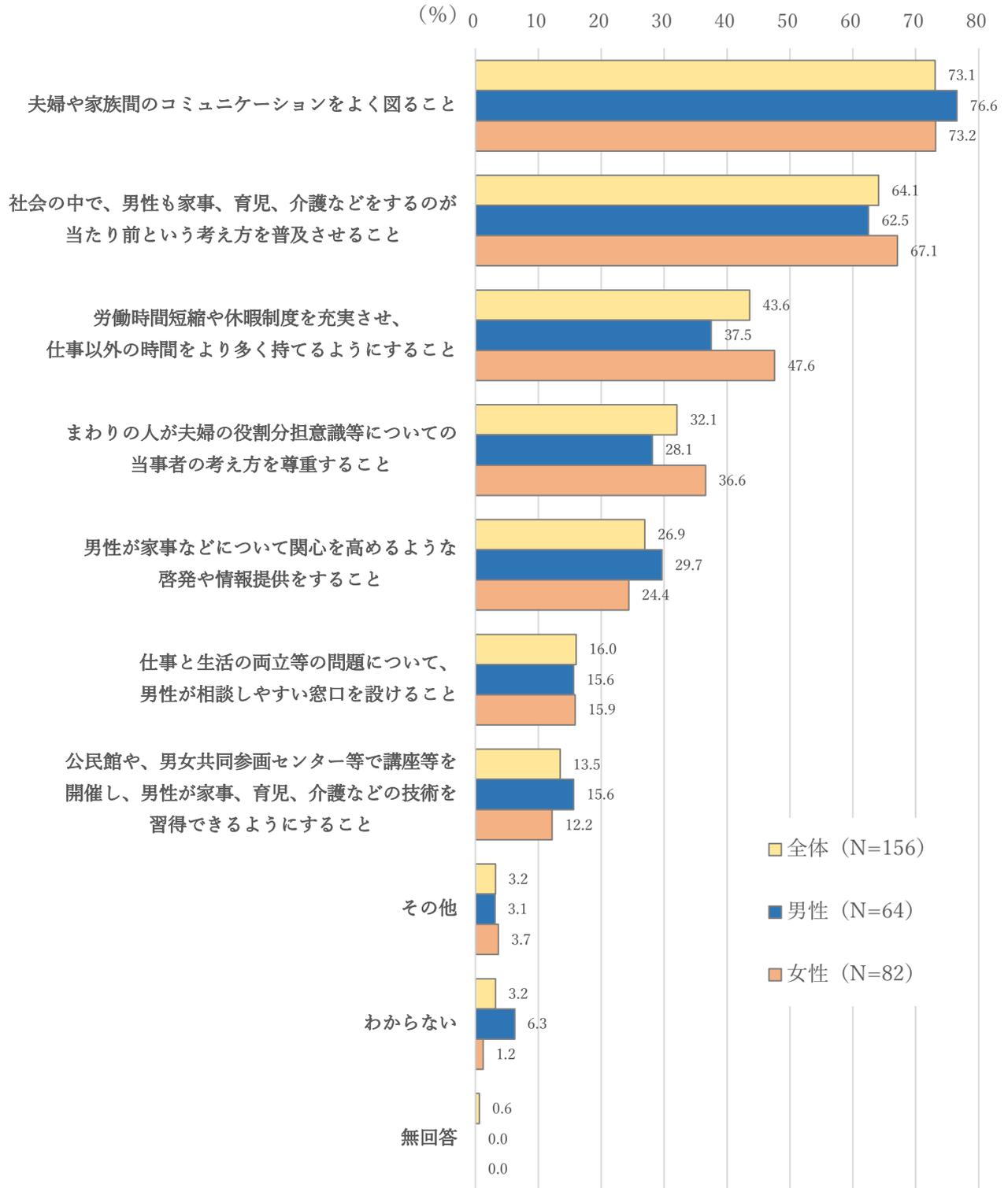
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『否定的な意見』*が女性で79.2%、男性で62.5%となっている。
- 『否定的な意見』は和歌山県の県民意識調査では女性73.0%、男性59.0%、内閣府の全国調査では女性63.4%、男性55.6%となっている。これは全国的な結果と比較しても高い割合となっている。

*「反対である」と「どちらかといえば反対」を合わせたもの。



男性の家事・育児等の積極的参加推進 報告書 p.21～22

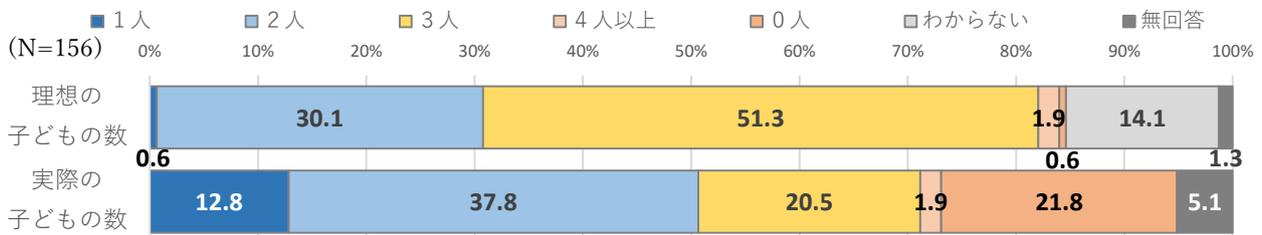
- 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が73.1%と最も高くなっている。和歌山県の県民意識調査（69.0%）、内閣府の全国調査（59.1%）と比較しても高い割合になっている。
- 「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」では、女性67.1%に対して男性37.5%となり、10.1ポイントと最も差がみられた。



子育てや子どもの教育について

理想の子どもの人数、実際の子どもの人数 報告書 p.23~24

- 「理想の子どもの人数」は「3人」が約50%で、男女間に差はみられなかった。
- 「実際の子どもの人数」は「理想の子どもの人数」と比べて「0人」と「1人」の割合が高くなっている。



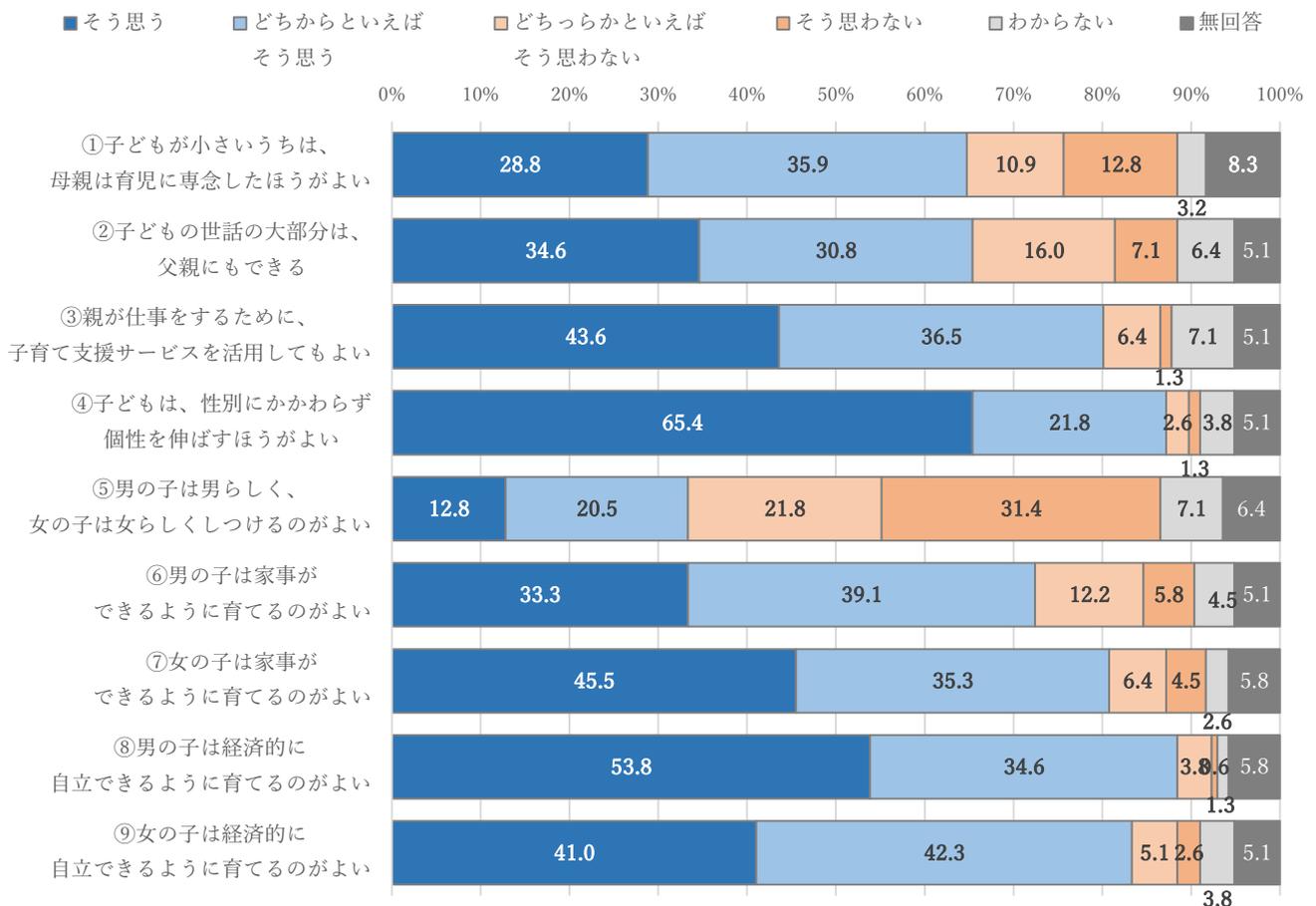
※「実際の子どもの数」では「わからない」という選択がない。

※「理想の子どもの数」での「4人」は、「実際の子どもの数」では「4人以上」となっている。

子育てについての考え 報告書 p.27~31

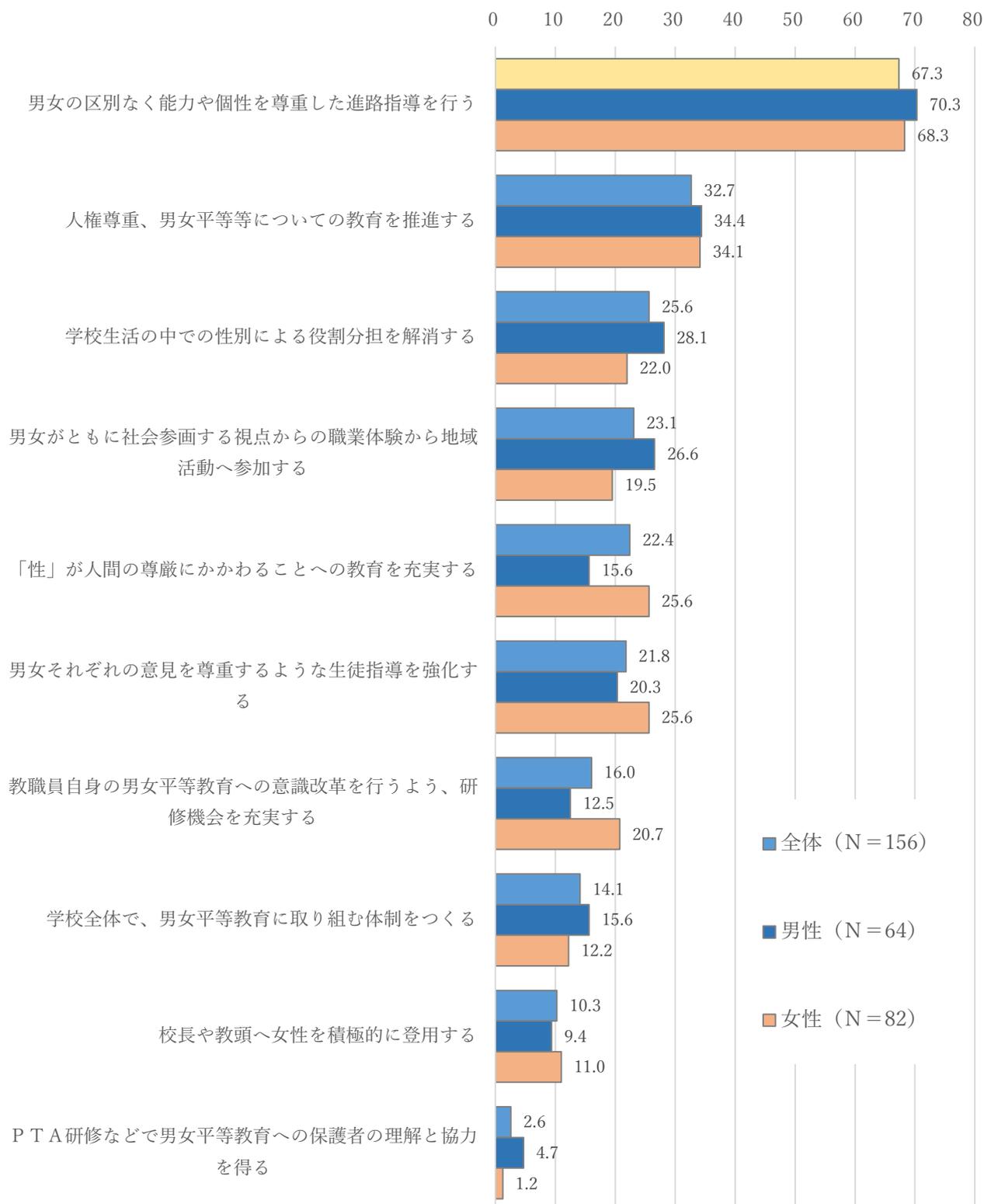
- 「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」の『肯定的な意見』※は33%で、和歌山県の県民意識調査39%と比較して、若干低い割合となっている。
- 「①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」の『肯定的な意見』は64%で、和歌山県の県民意識調査69%と比較して、若干低い割合となっている。
- 「②子どもの世話の大部分は、父親にもできる」の『肯定的な意見』は65%で、和歌山県の県民意識調査63%と比較して、若干高い割合となっている。

※「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。



男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること 報告書 p.32

- 「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」は67%で、和歌山県の県民意識調査60%と比較して、若干高い割合となっている。
- 「「性」が人間の尊厳にかかわることへの教育を充実する」は女性が男性より10.0ポイント高く、最も差がみられた。

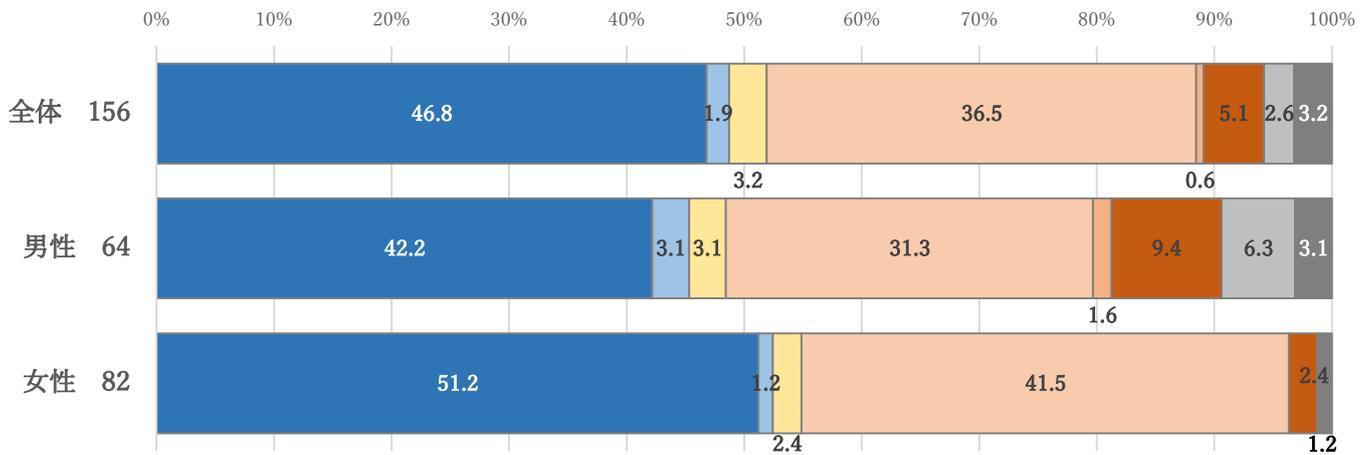


女性の理想の生き方・実際の生き方 報告書 p.33~34

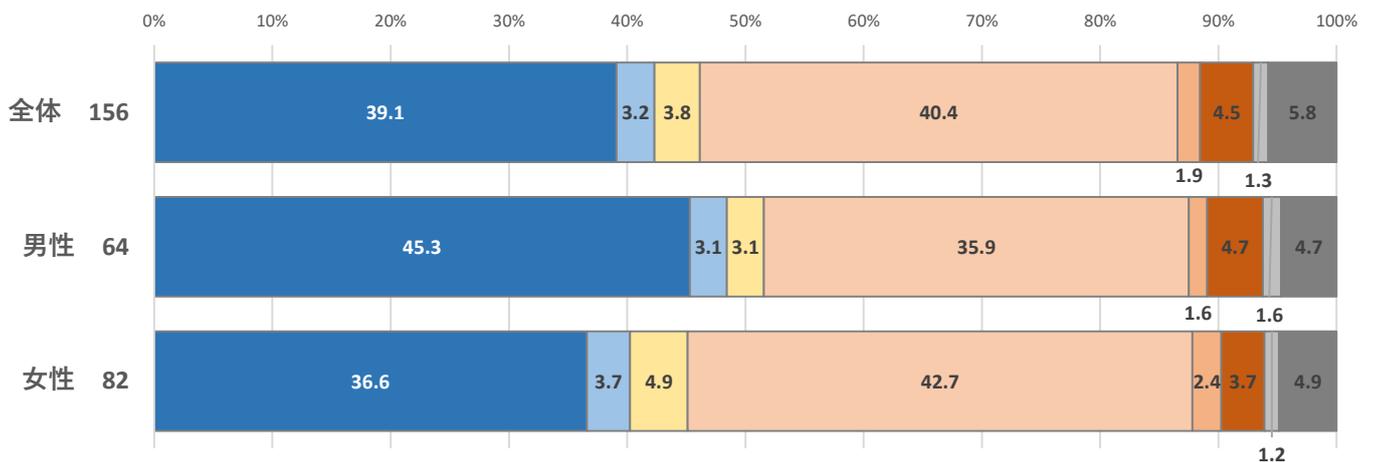
- 理想の（理想としていた）生き方において、「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」は46%で、和歌山県の県民意識調査45%と比較して、大きな差異はみられなかった。
- 実際になりそうな（現実にそうになっている）生き方において、「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」は39%で、和歌山県の県民意識調査31%と比較して、若干高い割合となっている。
- 女性の20~40歳代では「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は55%となっている。

- 結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ
- 結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない
- 出産までは職業を持つが、出産後は持たない
- 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ
- 結婚または出産後、初めて職業を持つ
- 一生職業を持たない
- わからない
- その他
- 無回答

● 理想の（理想としていた）生き方

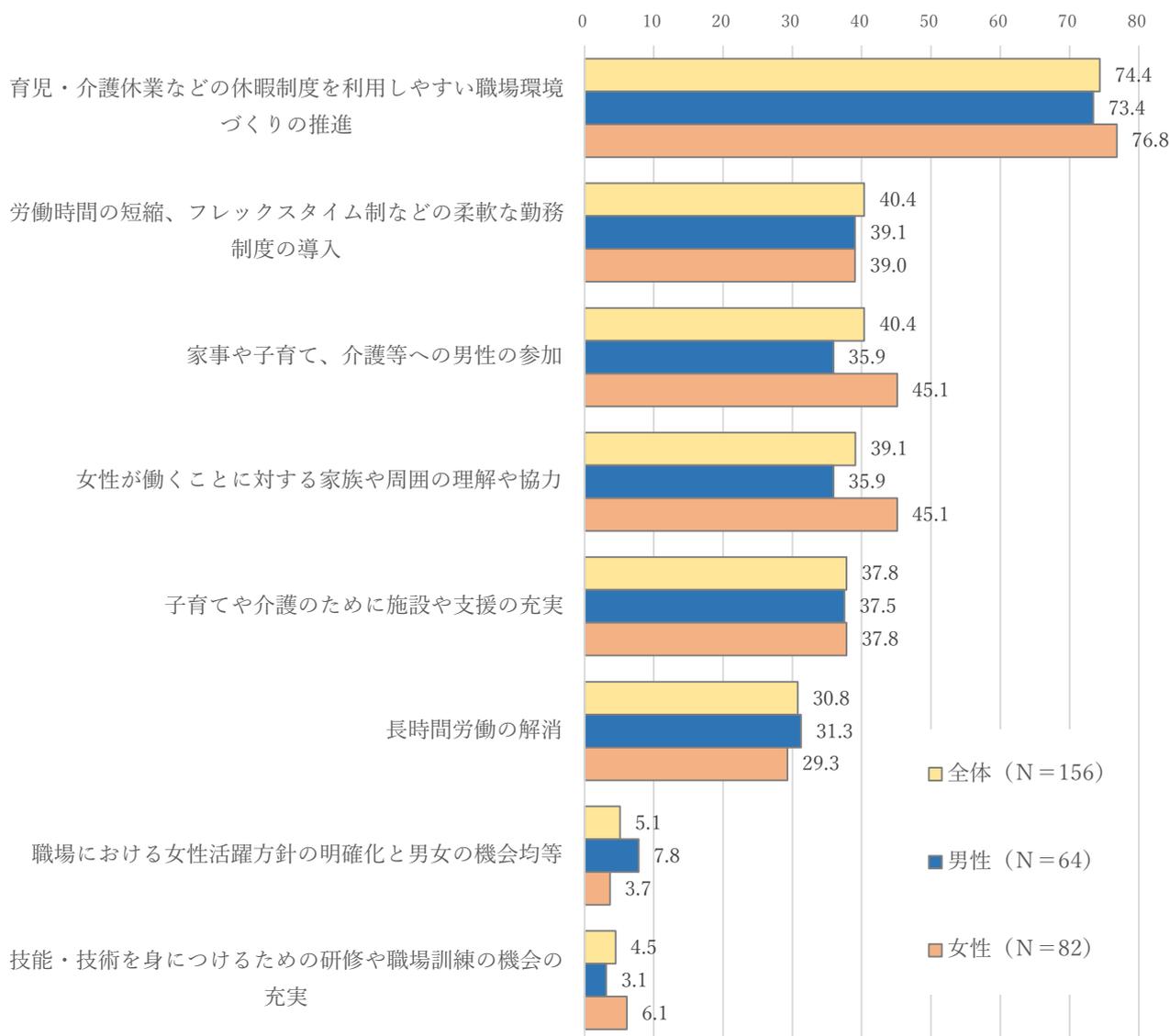


● 実際になりそうな（現実にそうになっている）生き方



女性が継続的に就労するために必要だと思うこと 報告書 p.37~38

- 「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が74%と、最も高くなっている。
- 「家事や子育て、介護等への男性の参加」、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」では、女性が男性よりも高く、男女間で約10ポイント程度差がある。



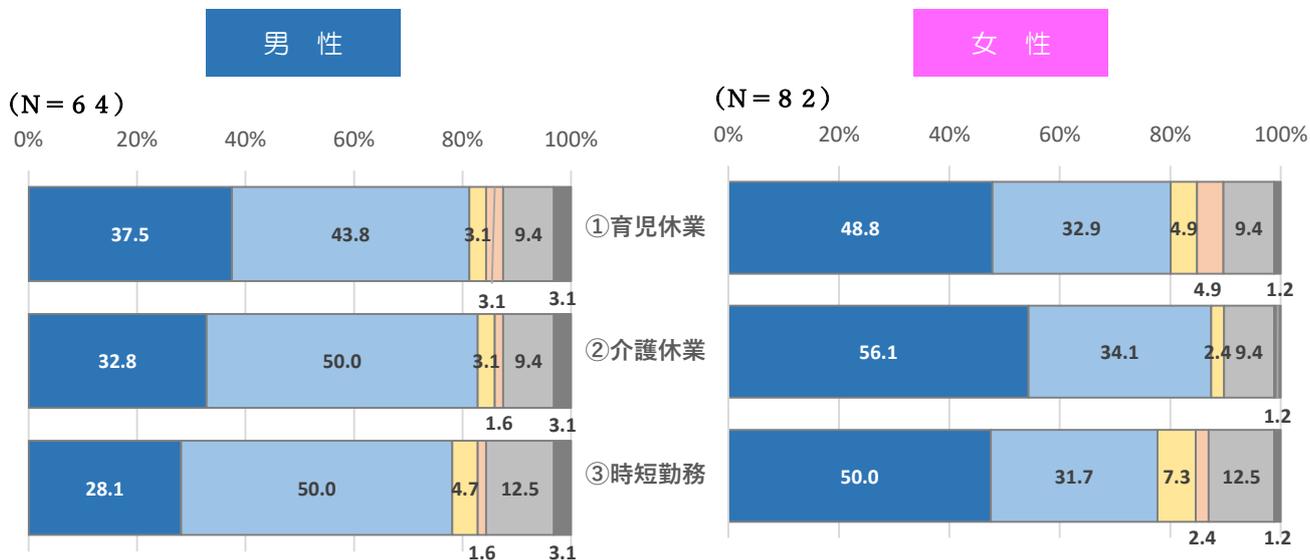
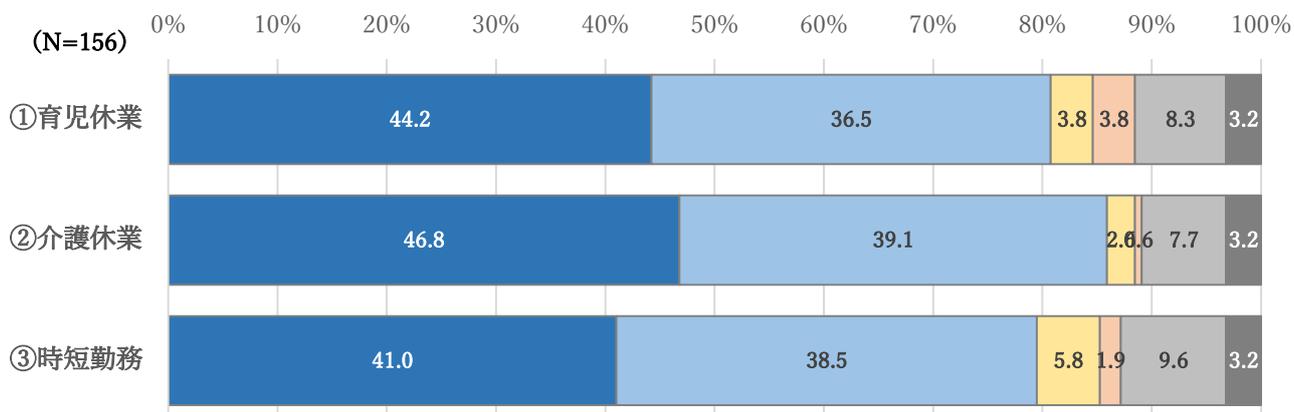
男性が育児休業・介護休業・時短勤務を 取得することについて

報告書 p.39~40

- いずれの項目も『肯定的な意見』※が80%前後と高くなっている。和歌山県の県民意識調査では70%前後となっており、高い割合となっている。
- また、男女別にみると、いずれの項目においても女性の「肯定的な意見」は男性よりも高くなっている。

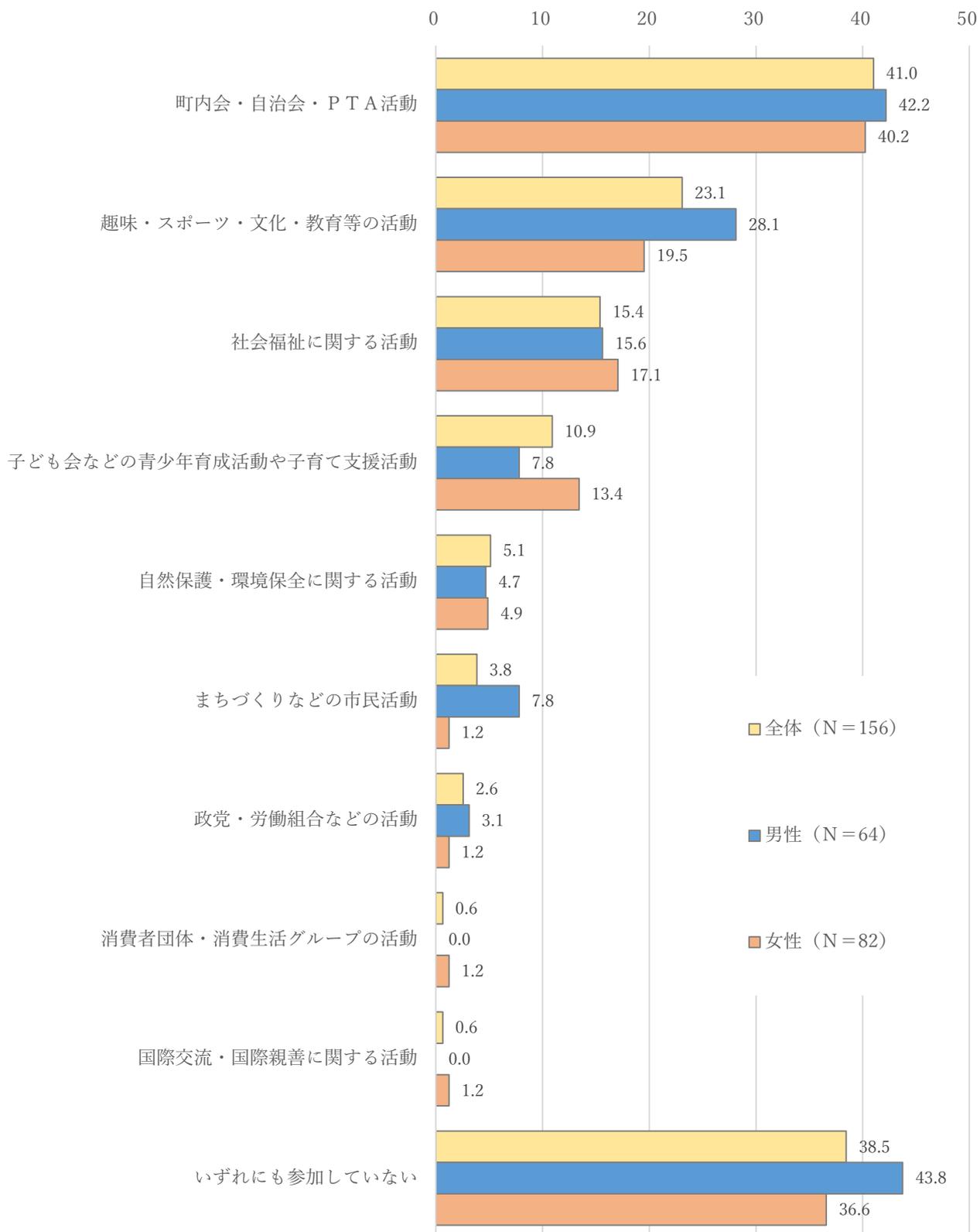
※「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせたもの。

■ 積極的に取得した方がよい ■ どちらかといえば取得した方がよい ■ どちらかといえば取得しない方がよい ■ 取得しない方がよい ■ わからない ■ 無回答



現在参加している社会活動、地域活動 報告書 p.41

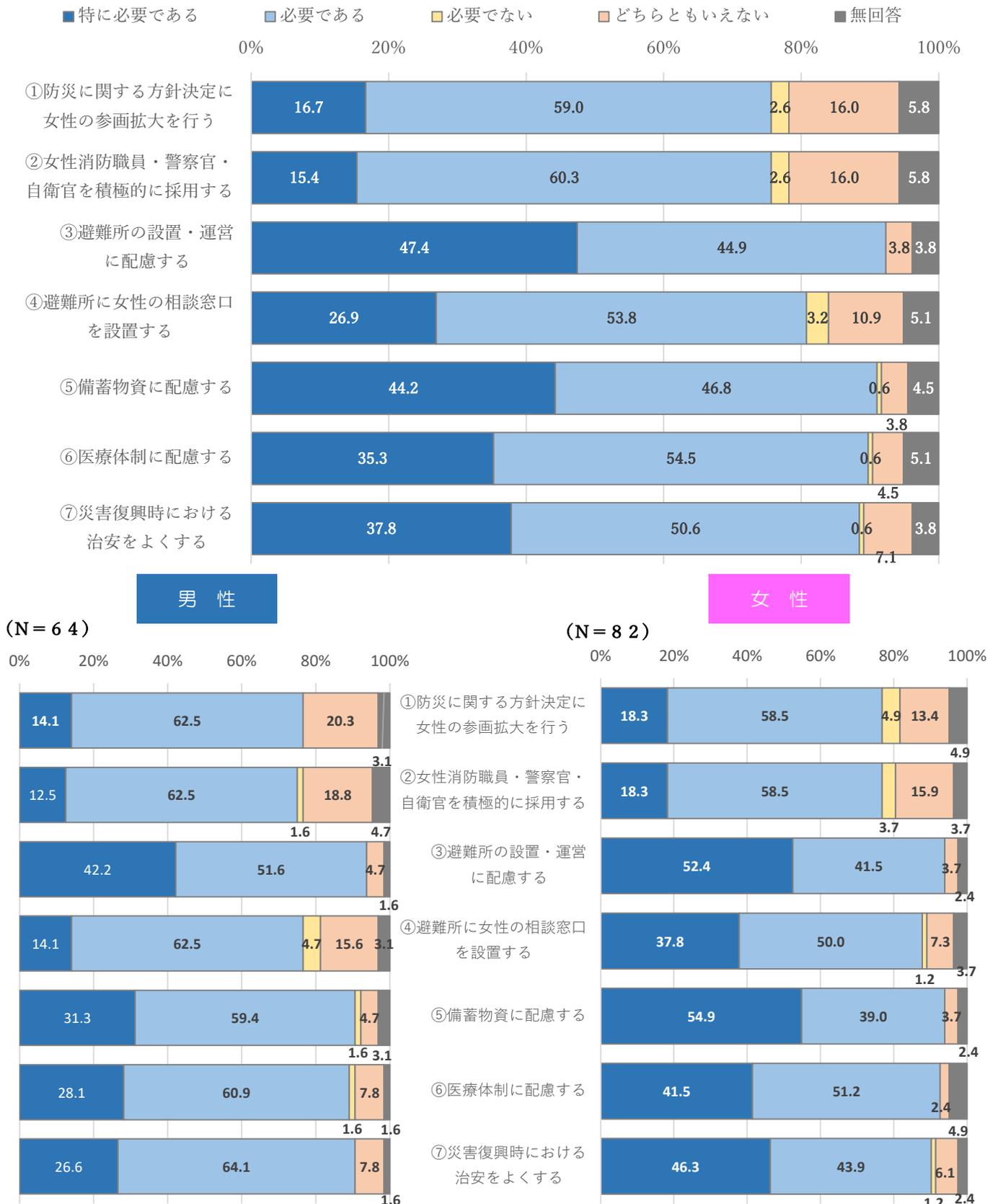
- 「町内会・自治会・PTA活動」が41.0%と最も高くなっている。
- 「いずれにも参加していない」が38.5%と次いで高く、男性が女性より7.2ポイント高くなっている。



防災・災害対策で女性に配慮する必要があること 報告書 p.45~

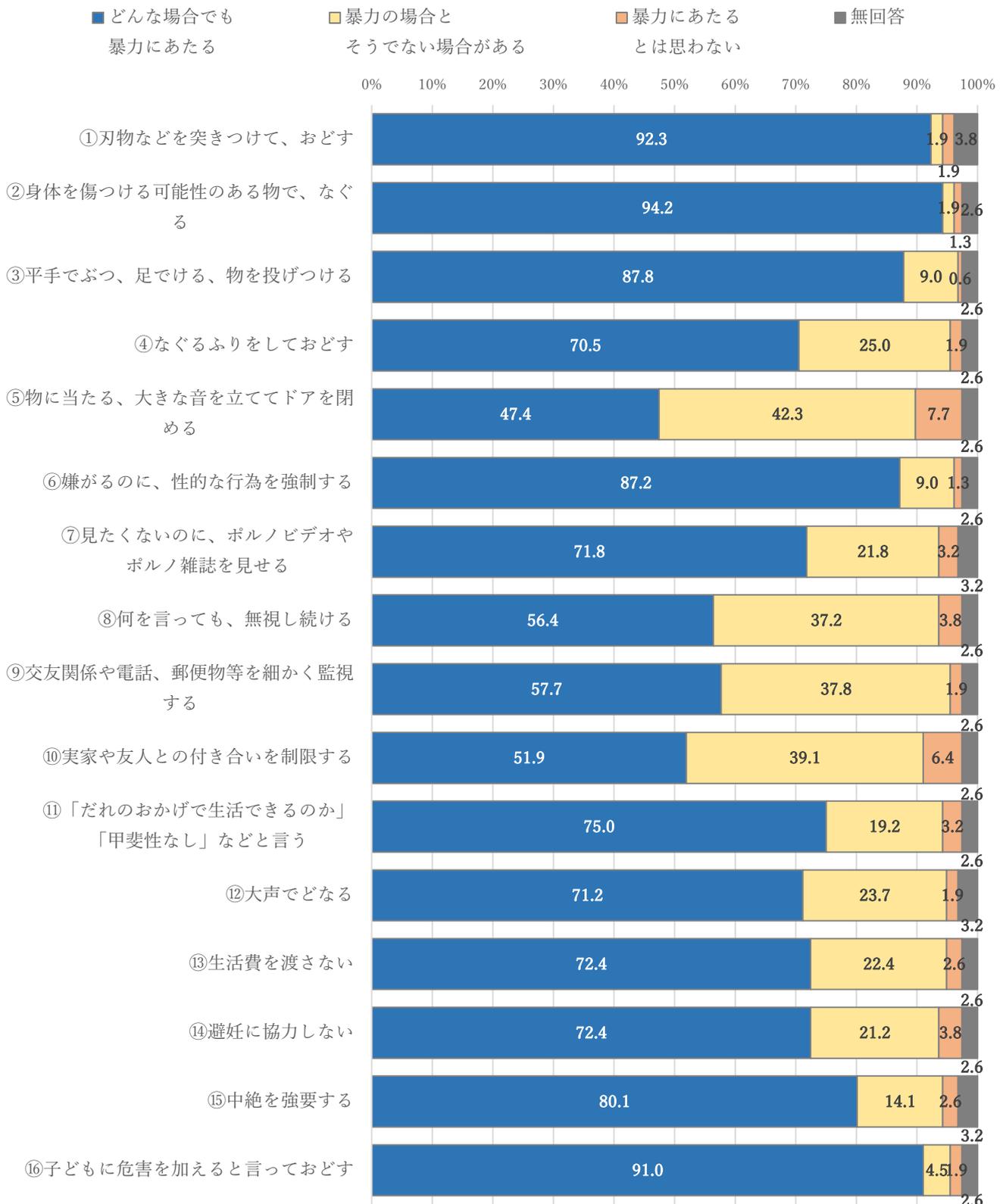
- 『必要である』*は、「③避難所の設置・運営に配慮する」と「⑤備蓄物資に配慮する」で90%を超えて、特に高くなっている。
- 「④避難所に女性の相談窓口を設置する」では、女性が男性より約11ポイント高くなっているが、他の項目では差はみられなかった。

*「特に必要である」と「必要である」を合わせたもの。



暴力と思う行為 報告書 p.47

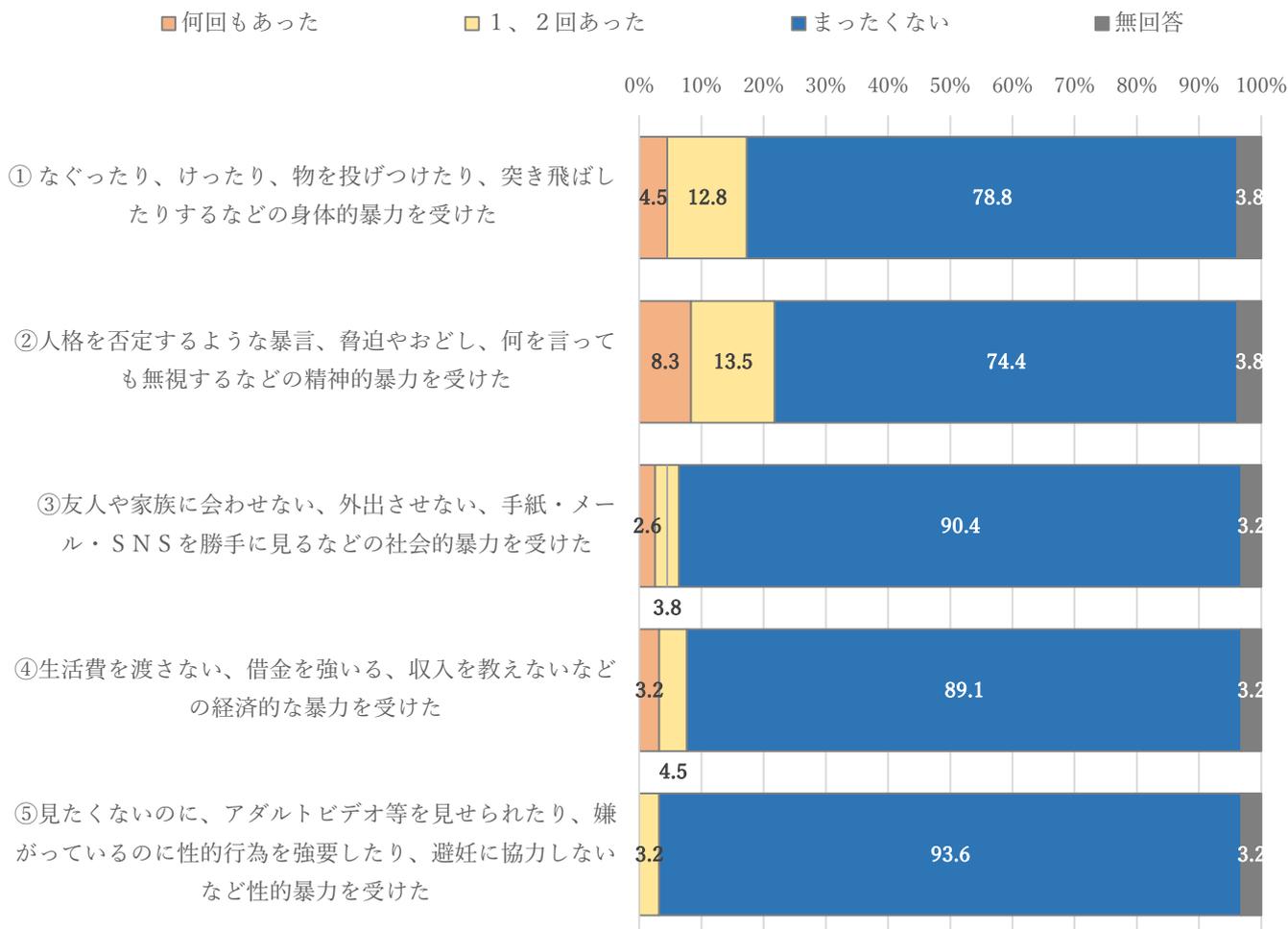
- 「どんな場合でも暴力にあたる」は、16項目中9項目で女性が男性より高くなっている。
- 「⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める」、「⑥嫌がるのに、性的な行為を強制する」、「⑨交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」、「⑭避妊に協力しない」の「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女ともに70歳以上が最も低くなっている。



配偶者や恋人からの暴力の経験 報告書 p.52

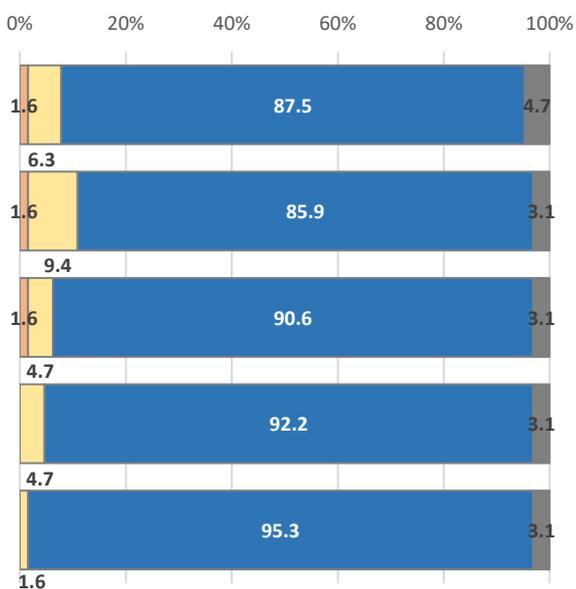
- 『DV経験あり』※は「②精神的暴力」で21.8%と最も高くなっている。
- すべての項目で『DV経験あり』は女性が男性より高くなっている。

※「何回もあった」と「1, 2回あった」を合わせたもの。



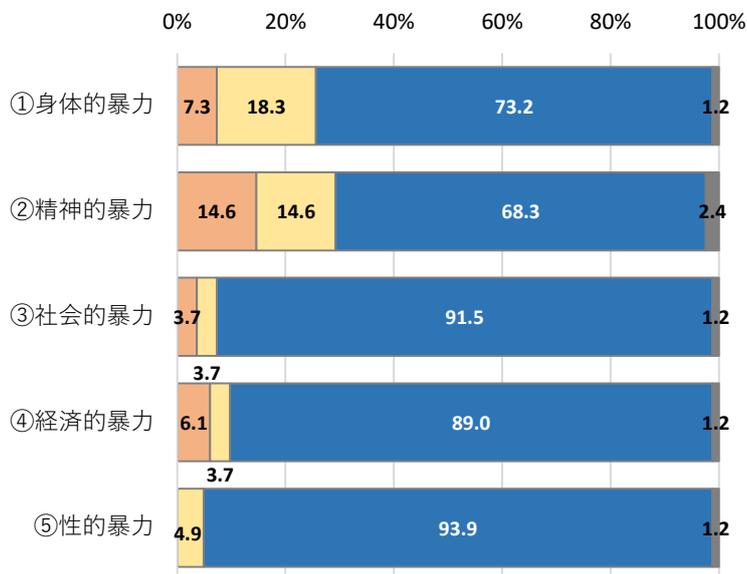
男性

(N = 64)



女性

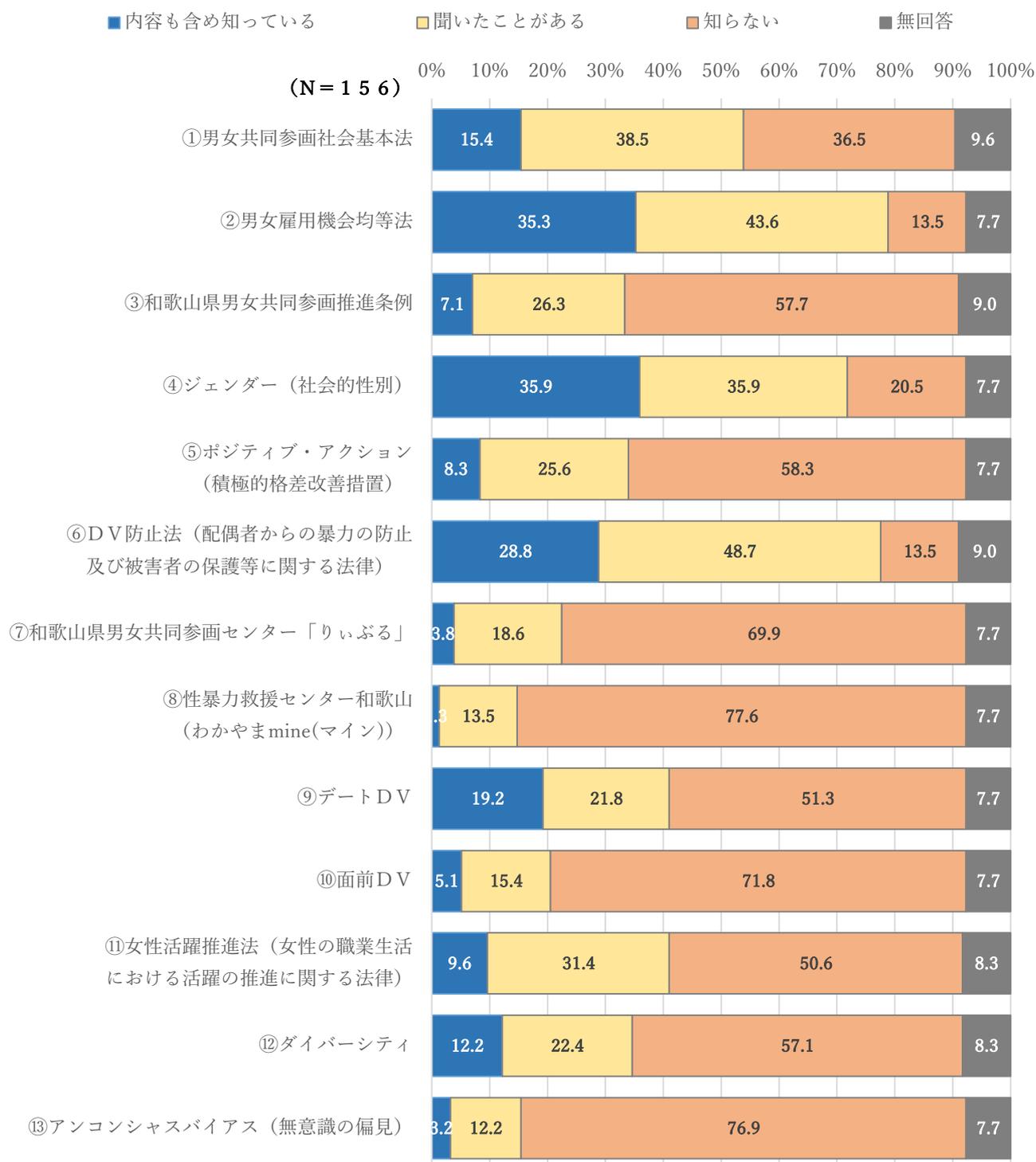
(N = 82)



男女共同参画の言葉についての認知度 報告書 p.57

- 『知っている』*は「②男女雇用機会均等法」、「⑥DV防止法」が約75%と高くなっている一方、「⑧性暴力救援センター和歌山（わかやまmine（マイン）」、「⑩面前DV」、「⑬アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」は「知らない」が75%前後と高くなっている。
- 男女の認知度に大きな差がみられたのは「④ジェンダー（社会的性別）」で、『知っている』は女性が男性より9.6ポイント高くなっている。

*「内容も含めて知っている」と「聞いたことがある」を合わせたもの



- 「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が39%と高くなっている。
- 「仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する」で女性が男性より約11ポイント高く差がみられた。

